河合塾・大竹先生による

先生方のための徹底入試対策講座

第107回　過去問は実力の判定のためにある？

「過去問はどうすればいいですか？」

A君が≪志望校の過去に出題された入試問題の勉強法≫について相談にやってきました．

「どういうこと？そろそろみんなやっている時期だが．」
「僕は一浪ですから，去年，10年分やりました．」
「で？」
「えっ？」
「10年分やってどうしたのかな」
「全然できなくて，自信を無くしました．」
「で？」
「えっ？」
「何のために，過去問をやったのかな．」
「…」
「全然できなかったのは仕方がない．その後どうしたかが問題なのだ．そのままにしておいたのなら，過去問をやったことは全くの無駄だったということになるね．」

過去問をやってみる目的は，
過去問をどれだけ解くことができるか，志望校に合格する可能性はどのくらいあるのか，
そうした実力を判定すること，であるというのは，
大きな誤り

ですね．
　実力判定が目的なら，出来なかったときにはどうするのでしょうか，志望校を変更するしかありません．
　過去問が出来た出来ないで一喜一憂するのは，ほとんど意味がありません（もちろんできたときには素直に喜べばいいのですが）．

過去問を勉強するのは，
過去問は，大学からのメッセージだから．

　それぞれの大学がこのような学生を入学させたいと直接表明しているのが入試問題です．そのためにはこのような学力を持つ学生を獲得したい，という目的で入試が行われます．
　受験生の立場から言えば，その大学の出題分野，難易度，出題形式，出題内容，数学の質，そうした情報を得て，自分の学力の欠けているところを補っていく，そうすることで自らの学力を鍛え，大学の要求する学力を自ら養成する，そのステップのための，
大変大きな，他では得られないような情報
なのですね．

バックナンバーはこちら

「先生，僕はもう一度，過去問を解き直してみます．そして，僕に足りないところを補うような勉強をします．」
「そこまでやって，初めて志望校対策というものだ．」
「僕は結局，去年は志望校対策をやっていなかったことになりますね．」
「まあ，そういうことになるかな．それに試験時間にも注意して！」
「わかっています！時間を意識しながら問題を解いていきます．任せてください．」
「頼もしいね！」

学校法人河合塾　数学科講師　**大竹真一**